

石川半山 いしかわ はんざん 評論家。明治五年八月十七日岡山縣生れ、大正十四

年十一月十一日没（一八七二—一九二五）。本名安次郎。別號半山在鶴小史、

香海、香海居士、香海生、城北隱士、石安生、石川安治郎、石川香海

等。慶應義塾（小學生）。『庚寅新誌』記者、『信濃日報』主筆、『中央

新聞』經濟部長と經て、『大阪毎日新聞』主筆、明治二十五年、『報知新

聞』（編輯）、二十八年歐洲特派員、四十一年めらは支那に滞在、のち

『萬朝報』主筆。大正十三年衆議院議員となる。

著書『當世人物評』（明治二十五年六月）、二十五年金港堂書肆株式會

社）、『露國の志士、愛蘭の佳人—大曲洋航海記の一節』（明治二十

九年十月十八日警醒社書店）、『世界的大競走・後編』（明治四十年

七月十日金港堂文淵堂）、『鐵鷹阿川太良』（編、明治四十三年六月一

十二日平井茂一刊）、『大正政界の裏面』（城北隱士名、大正四年八

月、二十七日大正書院）、『救海と五千名家』（合著・齋藤和堂編著、

大正九年十一月二十日靜岡・富永寛明刊、精和堂發賣）等。